

## 平成 27 年度 新技術・地域資源開発補助事業

市町村名	長崎県対馬市	
事業名	「ニホンミツバチの島」の伝統文化を次世代産業につなげるための「巣蜜」商品開発事業	
企業等概要	企業等の名称	特定非営利活動法人 対馬次世代協議会
	代表者氏名	理事長 須澤 佳子
	所在地	長崎県対馬市厳原町大手橋 1055
	連絡先	0920-52-7135
	URL	<a href="http://conosole.jp/">http://conosole.jp/</a>

平成 29 年 2 月現在

### 【事業者概要】

対馬市島おこし協働隊の隊員として島外から赴任し活動していた若者が中心となり、任期終了後も島内で引き続き活動する場として、平成 24 年 6 月に任意団体を結成。平成 26 年 2 月に NPO 法人化した。現在は、ご当地商品開発、漂着物対策プロジェクト、まちなかの清掃活動、伝統文化の継承活動、対馬のハチミツ振興プロジェクトなど多岐に取り組んでいる。

### 【事業概要】

#### ◇背景・経緯

大陸と日本列島との間に位置する対馬は独特の生態系をもち、ミツバチはニホンミツバチだけが生息する唯一の島である。対馬ではミツバチは昔から住民の暮らしと共にあり、蜂洞（はちどう）と呼ばれる伝統的な巣箱によって山間のいたるところで養蜂が行われている。しかし、近年は外来スズメバチの侵入や異常気象等によって島内のニホンミツバチの減少が続き、平成 26 年度の集蜜量は過去最低を記録。専業の養蜂家はおらず、高齢化もあって対馬の養蜂文化が衰退の危機に直面しており、養蜂の後継者育成が急務となっている。そこで当協議会では、対馬市ニホンミツバチ部会（以下、ミツバチ部会）と共に、養蜂が生業の一つとなり得ることを示すため、「巣蜜」の商品開発事業に取り組むこととした。



《対馬の伝統的な巣箱「蜂洞」》



《蜂洞に集まるニホンミツバチ》

#### ◇研究開発の概要

本事業では、①蜂蜜の品質向上のための規格設定 ②蜂蜜の新しい流通形態の開発 ③副産物からの商品開発 ④持続的な養蜂に向けた取り組み の 4 点から継続的な収益事業を行う仕組みづくりに取り組んだ。

## 【成果】

### ◇地域性・特徴

#### ① 蜂蜜の品質向上のための規格設定

島外の流通業者からの要望に応えられるよう、買取時に3種類（78%以上、77%台、76%台）の糖度規格を設定。さらに、納品された蜂蜜に水飴などの混合物がないか分析調査を実施。全ての生産者のロットから抜き取り調査を行い、添加なしとの結果を得た。



《希少価値の高い巣蜜》

#### ② 蜂蜜の新しい流通形態の開発

対馬の巣蜜を初めて商品化。希少価値が高く、一般的に高価とされる巣蜜を小瓶販売とすることで、買い求めやすくした。また、対馬産果物と蜂蜜の加工品を開発。季節ごとにシリーズ化することで通年販売の体制を充実させた。



《ミツバチ部会員の講習会》

#### ③ 副産物からの商品開発

集蜜容器に残った少量の蜂蜜も有効活用すべく、既存商品のご当地サイダーを蜂蜜入りとしてリニューアル。また、蜂蜜入りのワッフルやきなこ餅も開発した。

#### ④ 持続的な養蜂に向けた取り組み

ミツバチの研究者を講師に招いてミツバチ部会員向けの講習会を実施。同講師には蜜源植物とミツバチ自然群の調査への協力や、蜂群のモニタリング方法や蜂洞の設置方法にもアドバイスいただき、持続的な養蜂に向けた取り組みを行った。

### ◇商品化・販売先

「巣蜜入り蜂蜜」「生姜蜂蜜漬け」「果実蜂蜜漬け」の3種を商品化。ミツバチ部会の商品も詰め合わせたギフトボックスも取り揃えた。このほか、当協議会の商品であるご当地サイダー「TSUSHIMA SUNSET SODA」を蜂蜜入りでリニューアル。これらは島内のお土産店やオンラインショップで販売している。なお、ギフトボックスは対馬市のふるさと納税返礼品にも採用されている。



《対馬ヒノキのギフトボックス》



《果実蜂蜜漬け》



《蜂蜜入りでリニューアルしたサイダー(右)》

## 【今後の展望】

外来スズメバチや異常気象による影響についてモニタリングを継続するとともに、ミツバチ部会との連携を強化して、安定的な蜂蜜確保の体制づくりを進めていく。また、規格基準の証明書発行や生産者ごと・地域ごとの特長を活かしたブランディングにより、対馬蜂蜜の高付加価値化に取り組んでいきたいと考えている。